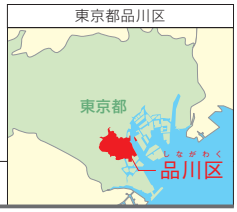
3. 荏原平塚学園

東京都　品川区立平塚小学校・荏原平塚中学校



グラウンド側から見た校舎外観

背景

品川区では平成15年に小中一貫特区の認定を受け、平成18年度から区内全ての小・中学校において、小中一貫教育への本格的移行を実施した。平成22年4月に品川区で4校目の施設一体型の小中一貫教育校として荏原平塚学園を開校した。

		学年								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9
運営状況	学年段階の区切り	初等部				中等部			高等部	
	授業方法	学級担任制				教科担任制				
	運営方式	特別教室型								
	授業時間	45分				※	50分			
	校長	校長1人								
	副校長・教頭	小学校副校長1人						中学校副校長2人		
	部活動	なし				部活動				
	PTA	PTA組織を一本化								
施設利用状況	ゾーニング	1階		2階		3階			4階	
	校長室	2階								
	職員室	2階（校務センター）								
	保健室	1階								
	特別支援学級					なし				
	音楽室	2階						5階		
	家庭科室	なし				5階				
	図書室	3階（メディアセンター）								
	ランチルーム	5階（ホール）								
	昇降口	各教室へ直結				1階				
	体育館	地下2階、地下1階								
	グラウンド	グラウンド								
	プール	6階（床昇降式）								
	給食室	1階（単独校方式）								

※第5学年の後期から50分に移行

学校概要

学校規模	[小]普　通:13学級（359人） [中]普　通:　6学級（178人）
学年段階の区切り	4−3−2
開校年	平成22年（2010年）
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上6階/地下2階
校地面積	12,113m²
延床面積	14,202m²
用途地域	近隣商業地域 商業地域 準工業地域

教育上の特色

「好学」「誠意」「鍛錬」を教育目標とし、9年間を通して自ら熱心に学習し、万人に真心を尽くし、心身を鍛えて強い意志と忍耐力を養うための指導に取り組んでいる。

児童生徒が目標に向かって計画的な学習に取り組むために、各学年における1年間の学習指針を示した「荏平学習ガイド」を毎年配布している。また、児童生徒に生活規律や実践力を身に付けさせるための市民科学習や、全児童生徒が1年間継続して行うあいさつ運動などを実施している。

学校運営（マネジメント体制）

1人の校長が小・中学校を兼務しているが、副校長が3名配置されており、それぞれ小中の担当が決まっている。

全職員に対して兼務発令されており、生徒指導関係、学校事務は共同実施している。

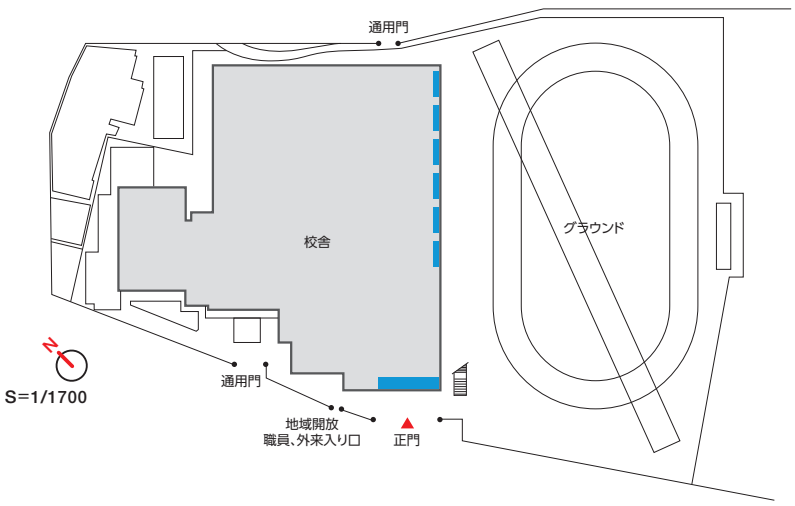
計画・設計のポイント

1.学年段階の区切りに対応した空間構成、施設機能
2.小中一貫教育の実施に適した安全性の確保
3.異学年交流スペースの充実
4.地域と共にある学校施設の整備

施設上の特色

- 都市部の施設一体型校として、校舎の地下2階に体育館を配置し、屋上にプールや広場を設けるなど、コンパクトな建物とすることで、可能な限り広い面積のグラウンドを確保している。
- 普通教室は、学年段階の区切りに合わせて1～4年を1、2階、5～7年を3階、8～9年を4階のグラウンド側にまとめ、特別教室は普通教室と階段を挟んで反対側にまとめて配置されている。
- 昇降口については、児童生徒の日常や避難時の安全性に配慮し、分散して配置しており、1～4年の昇降口は各教室のグラウンド側に設けてある。

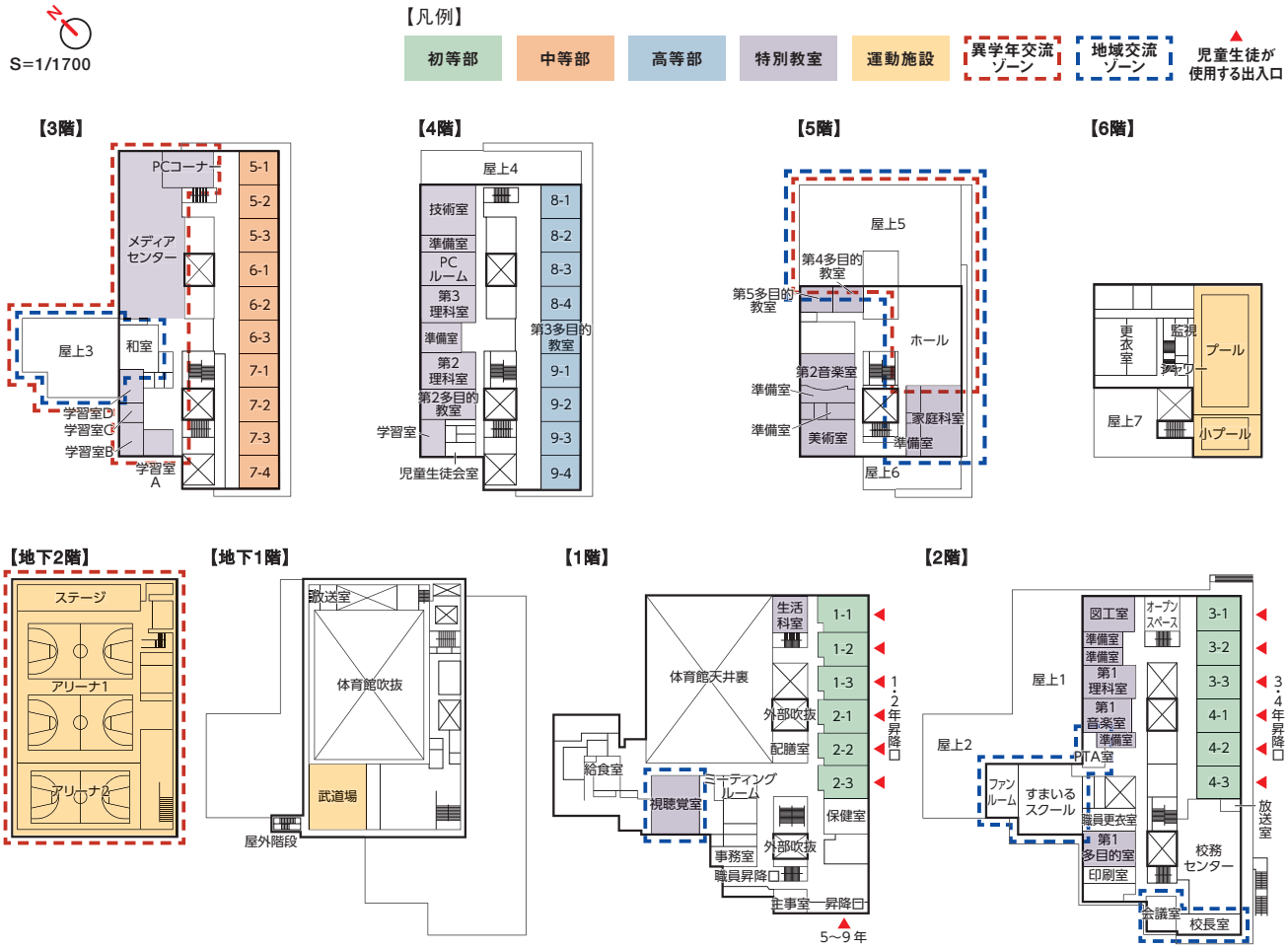
配置図



【凡例】
昇降口
▲ 児童生徒が使用する門

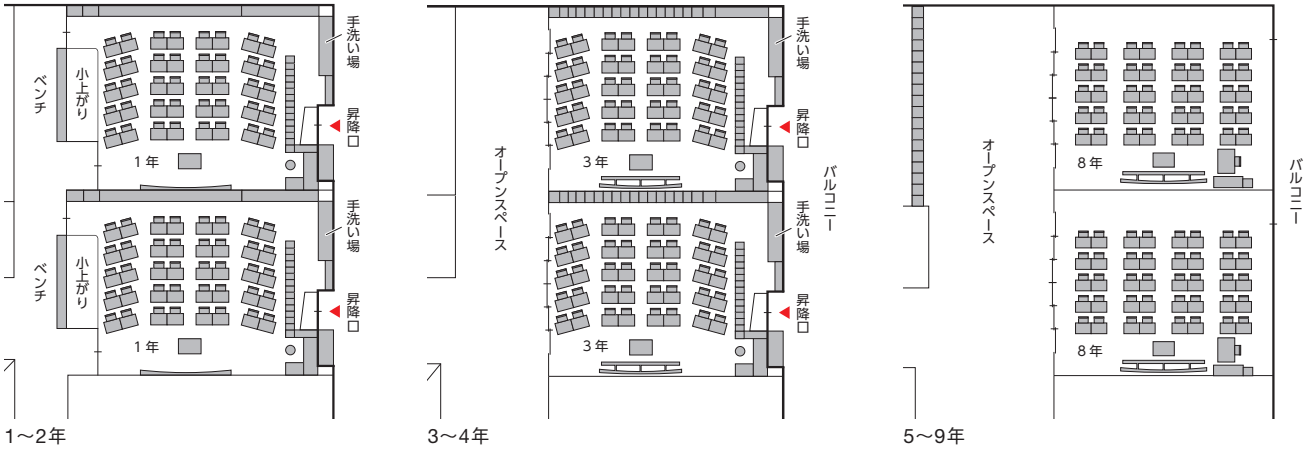
校地計画		従来からの中学校の敷地			
面積	グラウンド	4,900m²			
	校舎	12,111m²			
		小	5,910m²	中	6,201m²
	体育館	2,091m²			
		小	906m²	中	1,185m²

平面図



1. 学年段階の区切りに対応した空間構成、施設機能

教室・教室周り



普通教室周りは、学年ごとの学習形態の進展に応じた計画となっている。

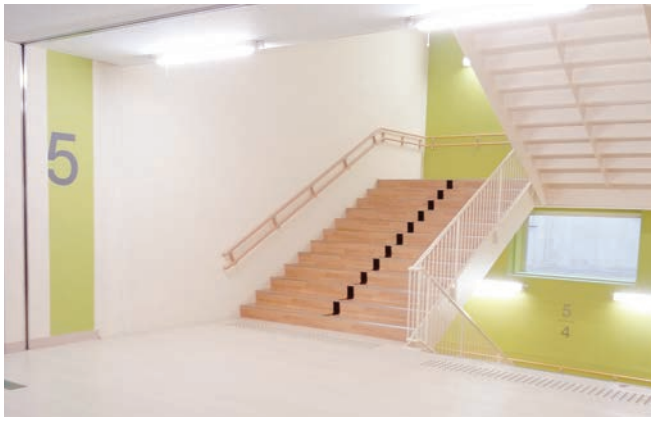
1～2年の教室は昇降口、手洗い場、ロッカー等を教室内に配置してさまざまな機能が教室内でまかなえる自己完結型の教室となっている。

3～4年の教室はクラス単位での活動を中心に想定し、教室内の設備を充実させると共に、クラス単位のグループ学習だけでなく学年単位での習熟度別学習にも対応できるオープンスペースを併設している。

5年以上の教室は学年単位の習熟度学習に対応し、オープンスペースにPCを置いた学習スペースを設置している。ステップアップ学習（基礎学力向上）に利用できる多目的教室を同じフロアに計画している。

2. 小中一貫教育の実施に適した安全性の確保

動線



1～4年は各教室に昇降口が整備されており、バルコニーから直接教室へ入ることができる。学年が上がることによる環境の変化を実現すると共に、避難ルートとしても有効である。また普通教室のあるフロアには3カ所に階段を設けている。階段ごとに色分けし、中央の階段は幅を広くすることで、通常時も避難時も児童生徒が混雑しないように計画している。

全天候・全学年対応型プール

校舎最上階の6階に設置したプールは、全天候に対応できるよう開閉屋根式を採用し、5月～10月の授業に対応している。また、水位調整のバランスタンクの代わりに小プール（右写真奥）を設置し、低学年の児童が安全に使用できるようにしている。

3. 異学年交流スペースの充実

メディアセンター周辺

全学年が利用し易い3階に図書室とPC教室を一体化したメディアセンターや、和室、多目的教室を設けている。和室は図書の閲覧にも利用できるほか、屋上の日本庭園に面し、日本の四季の変化を感じることができる。これらは学年間だけでなく、地域住民を含めた多様な交流の場としても活用している。

4. 地域と共にある学校施設の整備

近隣に配慮した配置計画

体育館の地下化やプールの屋上設置等、土地の高度利用を行い、広い面積のグラウンドを確保すると共に地上部分の校舎のボリュームを押さえている。

さらに低層住宅地側には、歩道やポケットパーク、屋上緑化を設置する等圧迫感の軽減を図り、周辺の良好な環境づくりに配慮している。

ホール

5階のホールは家庭科室や屋上テラスと連続して作られており、異学年交流だけでなく、地域利用など多目的に使える空間としている。

校長の視点から

荏原平塚学園 校長 青木（あおき） 経（おさむ）

施設一体型小中一貫校において一番に配慮しなければならないのは、それぞれの学年やブロック、更には学園全体で行う学習活動に応じた施設が整っているかです。

本学園は今までの小中一貫校の問題点が改善され、子供たちの動線に配慮した低学年の教室や高学年での個別学習が可能な学習室が整っています。また、2カ所の屋上広場や文化的な施設を集中させた3階には和室と日本庭園があり、精神的にゆとりある環境を生み出しています。

新築　整備後に増築・改修

4. はるひ野小中学校

神奈川県　川崎市立はるひ野小学校・はるひ野中学校

校舎外観南東面

背景

平成2年から土地区画整理事業が進められた川崎市麻生区黒川・はるひ野地区に、街づくりの核となるべき公共施設として、小学校の建設が予定されていたが、地域の要望により中学校も同時に建設することとなった。その後、学校建築の有識者も加わる基本計画検討委員会での議論を経て、平成19年1月にPFI事業として学校建設に着手し、平成20年4月に小中連携校として開校した。

		学年 1	2	3	4	5	6	7	8	9
運営状況	学年段階の区切り	前期				中期			後期	
	授業方法	学級担任制						教科担任制		
	運営方式	特別教室型						教科教室型		
	授業時間	45分				50分				
	校長	小学校長1人						中学校長1人		
	副校長・教頭	小学校教頭1人						中学校教頭1人		
	部活動	なし				ジュニアクラブ		部活動		
	PTA	PTA組織を一本化								
施設利用状況	ゾーニング	1階	2階	1階	2階	4階	3階	3階	4階	
	校長室	1階						1階		
	職員室	1階（校務センター）								
	保健室	1階								
	特別支援学級	1階						3階		
	音楽室	3階						3階		
	家庭科室	なし				3階（被服室・調理室）				
	図書室	2階								
	ランチルーム	なし						3階	1階	
	昇降口	1階	2階	1階	2階		2階			
	体育館	2階（小アリーナ）						1階（大アリーナ）		
	グラウンド	グラウンド								
	プール	屋上（床可動式）								
	給食室	1階（単独校方式）							なし	

学校概要

学校規模	［小］普　　通:32学級（1057人） 特別支援:　6学級（20人） ［中］普　　通:　9学級（307人） 特別支援:　3学級（4人）
学年段階の区切り	4−3−2
開校年	平成20年（2008年）
構造	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
階数	地上4階
校地面積	30,682m² ※うち7,894m²は増築に伴い追加
延床面積	20,539m² ※うち4,800m²は平成26年に増築
用途地域	第一種中高層住居専用地域

教育上の特色

教育目標は「知力」「心情」「体力」「小中連携」がキーワードとなっており、楽しく学び、助け合い、明るく、だれとでも仲良く、という学校方針である。学習発表会や音楽集会等、各種行事を小中合同で行うほか、異学年を招待して行う授業を日常的に実施するなど、児童生徒が自然に交流しながら、学校方針を実践できるよう、様々な活動を積極的に取り入れている。

学校運営（マネジメント体制）

学校ごとに校長が配置されており、適宜連携を図っている。管理職を除く全教職員に対して兼務発令がされており、9年間を通して児童生徒の成長を見守っている。

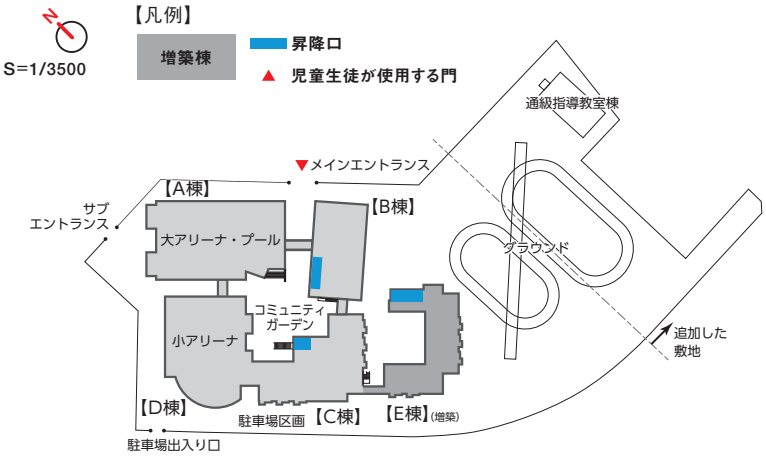
計画・設計のポイント

1. 学年段階の区切りに対応した空間構成、施設機能
2. 地域と共にある学校施設の整備
3. 異学年交流スペースの充実
4. 学校運営の一貫性確保への対応

施設上の特色

- 平成20年に開校後、当初予想を上回って児童生徒数が増加したため、平成26年4-3-2の学年段階の区切りを保つような増築・改修を実施。校舎は中庭を取り囲む4棟に加えてグラウンドにE棟を増築し敷地も拡充している。
- 小中の職員室（校務センター）を一体化し、校門、中庭、校庭が見渡せるB棟1階に配置し、A棟1階には、地域交流センター、わくわくプラザ等を設け、学校が地域コミュニケーションの核として機能できる整備を行っている。
- 児童生徒の発達段階に応じて空間構成や教室環境に特色や変化を付けており、中学部では教科教室型を導入している。

配置図



【整備の沿革】
平成19（2007）年　着工
平成20（2008）年　開校
平成26（2014）年　児童生徒数の増加により増築

校地計画			新しい敷地＋増築に伴い敷地を追加		
			開校時		平成26年
面積	グラウンド		7,465m²		11,966m²
		小	4,406m²	小	6,199m²
		中	3,059m²	中	5,767m²
	校舎		13,262m²		18,062m²
		小	7,827m²	小	12,627m²
		中	5,435m²	中	5,435m²
	体育館		2,477m²		2,477m²
		小	1,279m²	小	1,279m²
		中	1,198m²	中	1,198m²

平面図

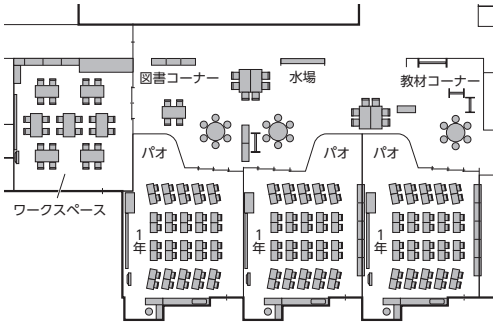
※A～D棟の3、4階は、中学生が教科教室型として使用している。

1. 学年段階の区切りに対応した空間構成、施設機能

教室・教室周り

- **小学部：低学年用教室**

小学1～2年生の教室は、教室内に様々な機能を内包させるため高学年教室より広くゆったりとしたつくりになっている。パオという小さなスペースを教室内に設置することで、多様な学習活動を可能にするとともに、集団生活、学校生活に慣れるために子供が自分で居場所を選択できるよう工夫している。



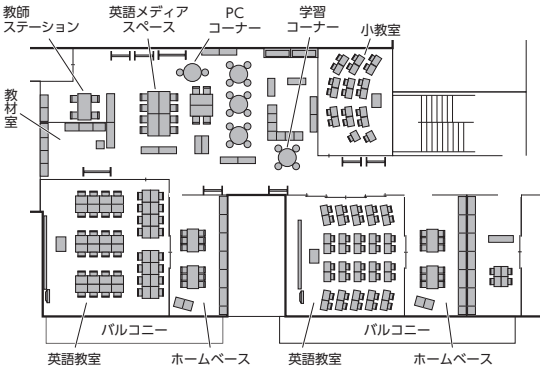
教室の一画に設けられた小空間「パオ」。クラスのミニステージとしても活用される。

教室前のオープンスペースを利用して作業をする児童たち

- **中学部：教科教室**

中学部は教科教室型であり、各教科教室のほか、教科ごとにメディアスペースや小教室等が設置されており、生徒の多様な学習を可能としている。

また、ホームベースと各教科教室は、間仕切りを開けば一体的に利用することも可能となるなど、様々な用途に応じられるつくりとなっている。



教科教室（奥）とホームベース（手前）は、一体的な使用も可能となっている。

2. 地域と共にある学校施設の整備

地域交流センター

コミュニティガーデンに面した大きな開口のある多目的ホール

地域の会議や打合わせに使用できるミーティングルームとサロン

地域交流センターには、多目的ホールやミーティングルーム、コミュニティーサロン等があり、地域と学校との自然な交流が生まれ、学校が地域コミュニティの核となるように考えている。

3. 異学年交流スペースの充実

多目的ホール（ランチルーム）

1階の多目的ホールは、異学年交流や地域交流のためのスペースとして設けており、児童生徒や地域の人々がランチにも利用している。

メディアセンター

児童生徒が利用しやすいように、オープンで明るい空間としている。

図書室とPC室が隣接しており、調べ学習を行いやすい。

児童生徒の身近な教材となる図書室やコンピュータ室を中心としたメディアセンターを、小中合同の調べ学習の拠点として学校の中心に配置している。

展示・発表スペース

小学校低学年の教室前の展示

中庭に面した幅の広い階段も、一つのステージとして使うことができる。

校内にオープンスペースや広い階段を多く配置することで、各学年の展示や発表の場を多く作り出している。多様な発表場所や機会があることで、児童生徒が互いの様子を知り、学習に興味をもったり、進級への不安を軽くする効果を期待している。

4. 学校運営の一貫性確保への対応

校務センター

教職員の休憩スペース

校務センターとして小中の職員室を一体的に整備。教職員間の一体感を生み出している。広くオープンな校務センターの脇には、小さな教職員用の休憩スペースも設けている。

校長の視点から

はるひ野中学校 校長 大串（おおくし） 一彦（かずひこ）

平成20年4月に開校した川崎市で初めての小中合築、施設一体型の小中連携校です。PFI事業で建設が行われ、小中連携教育を強く意識した校舎環境、管理運営・給食の民間委託、地域交流センターの併設等、特徴的で高機能な学校施設を有しています。小中合築という教育環境を生かした本校の最大の特徴は「小中9年間を通じた人間形成の実現と新たな学校文化の創出」であります。小中9年間を小学部1年～4年、小学部5年～中学部1年、中学部2年～3年という4-3-2のブロックに分けた教育活動を実践し、いわゆる中一ギャップは無く、総合的な学習の時間を中心に小中学生が一緒に学習する場面を多く設定しており、思いやりなど豊かな人間性の育成が図られています。